

松本市時計博物館展示リニューアル基本計画

令和8年3月

目 次

はじめに	1
I 現在の状況	
1 松本市時計博物館の概要	2
2 各調査結果	6
II 本計画の位置付け	7
III リニューアルの方向性	
1 本施設の基本理念と役割	9
2 リニューアルでの対応	10
IV 展開する事業活動とリニューアルのポイント	11
V 展示計画	
1 展示リニューアルのポイント	14
2 展示概要と改修範囲	14
VI 事業スケジュール	28

はじめに

松本市時計博物館（以下「時計博物館」という。）は、「松本まるごと博物館構想」の中核施設である松本市立博物館の分館の一館として、またこの構想に基づいた中心市街地振興の拠点として平成14年9月に開館しました。全国でも有数の古時計コレクションを有し、市民はもとより観光で松本市を訪れる国内外の人々に広く親しまれています。

時計博物館の最大の特徴は、これらの貴重な資料をできる限り動いている状態で展示公開している点にあります。振り子の動く様子や歯車が時を刻む音など、時計のしくみを間近で体感することができ、時計博物館の魅力の一つとして、訪れる人々から好評を得てきました。

一方で、開館から20年以上が経過し、展示造作の老朽化や故障が散見されるほか、動態展示を支える時計技師の後継者育成といった課題も抱えています。

時計の歴史は人類の歴史と深く結びついており、松本の歴史においても時計や時間の概念は欠かすことができない要素です。また、松本が高度成長期に新産業都市として発展した背景には、城下町・交通の要衝として人や技術が集積し、地域に根付いてきたものづくりの精神があります。

時計博物館は、全国有数の古時計コレクションと動態展示を生かし、時計・時間という視点から松本の歴史や文化、ものづくりの魅力を発信するとともに、時計技術の継承に寄与する役割を担っていきます。

本計画は、こうした役割を将来にわたり果たしていくため、現状の課題を整理し、時計博物館のリニューアルに向けた基本的な方向性を示すものです。

I 現在の状況

1 松本市時計博物館の概要

【時計博物館開館までの経緯】

昭和 45 年 本田親蔵と塚田泰三郎の共著『古時計-西洋と日本-』刊行出版を記念し、松本市立博物館（以下「市立博物館」という。）で「日本・西洋古時計展」を開催
同展では、本田親蔵が所蔵する古時計コレクションの中から 234 点の古時計を出品協力

49 年 **本田親蔵が松本市に古時計コレクションを寄贈**
地元時計商の協力もありコレクションの誘致が実現
松本市は、重要有形民俗文化財収蔵庫を一部改修した時計博物館を設置し、貴重な古時計コレクションを公開



重要民俗資料収蔵庫
出典：市 HP「松本市昭和写真集」

55 年 市立博物館で「世界の古時計展」を開催
市立博物館の展示室に「世界の古時計」コーナーを開設



古時計の手入れをする本田親蔵と地元時計商の能勢活朗（1980年5月）
出典：市 HP「松本市昭和写真集」

60 年 1月4日、本田親蔵永眠
市立博物館の古時計展示室に胸像を設置

平成 12 年 3月、松本まると博物館構想を策定
市民から寄贈された時計も加わり、松本市でかねてより進めてきた時計資料専門の博物館施設の設置検討を本格化。その準備の一環として、本田親蔵旧蔵資料 29 点を取得し、資料群の充実を図る。

14 年 **9月1日、時計博物館が開館。**
開館を機に、本田コレクションを核とする時計資料は、市立博物館から時計博物館へ移管
時計資料が常時稼働する展示構成とするなど、時計や時についてより広く、より深く学習できる展示を実現

【施設概要】 ※令和7年度現在

JR松本駅と国宝松本城天守を結ぶ散策ルートに、日本最大級を誇る振り子時計をシンボルとする建築デザインで、松本市の新しいランドマークとなることを意識して建設

- 【名称】** 松本市時計博物館
- 【所在地】** 松本市中央1丁目21番15号
- 【アクセス】** JR松本駅から徒歩10分
- 【開館年月】** 平成14年9月1日
- 【管理運営】** 市直営
- 【開館形態】** 開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時半まで）
休館日：毎週火曜、年末年始
観覧料：大人 500円（20人以上の団体450円）
小中学生 200円（20人以上の団体180円）
※ 障がい者及びその介助者（1名）は無料、その他減免あり
- 【入館者数】** 令和4年度：合計数23,917人（うち外国人652人）
令和5年度：合計数26,185人（うち外国人2,033人）
令和6年度：合計数31,890人（うち外国人3,136人）
- 【構造・規模】** 鉄筋コンクリート造 4階建
敷地面積：443.99㎡（時計博物館部分：318.74㎡）
建築面積：385.47㎡
延床面積：1,495.6㎡（時計博物館部分：1,073.74㎡）
- 【施設構成】**
- | | |
|-------------|---------|
| 常設展示室（1,2階） | 372.14㎡ |
| 企画展示室（3階） | 108.59㎡ |
| 講座室（3階） | 45.36㎡ |
| 収蔵庫（3階） | 55.70㎡ |
- ※ その他複合施設：テナント、公民館、商店街振興組合事務所

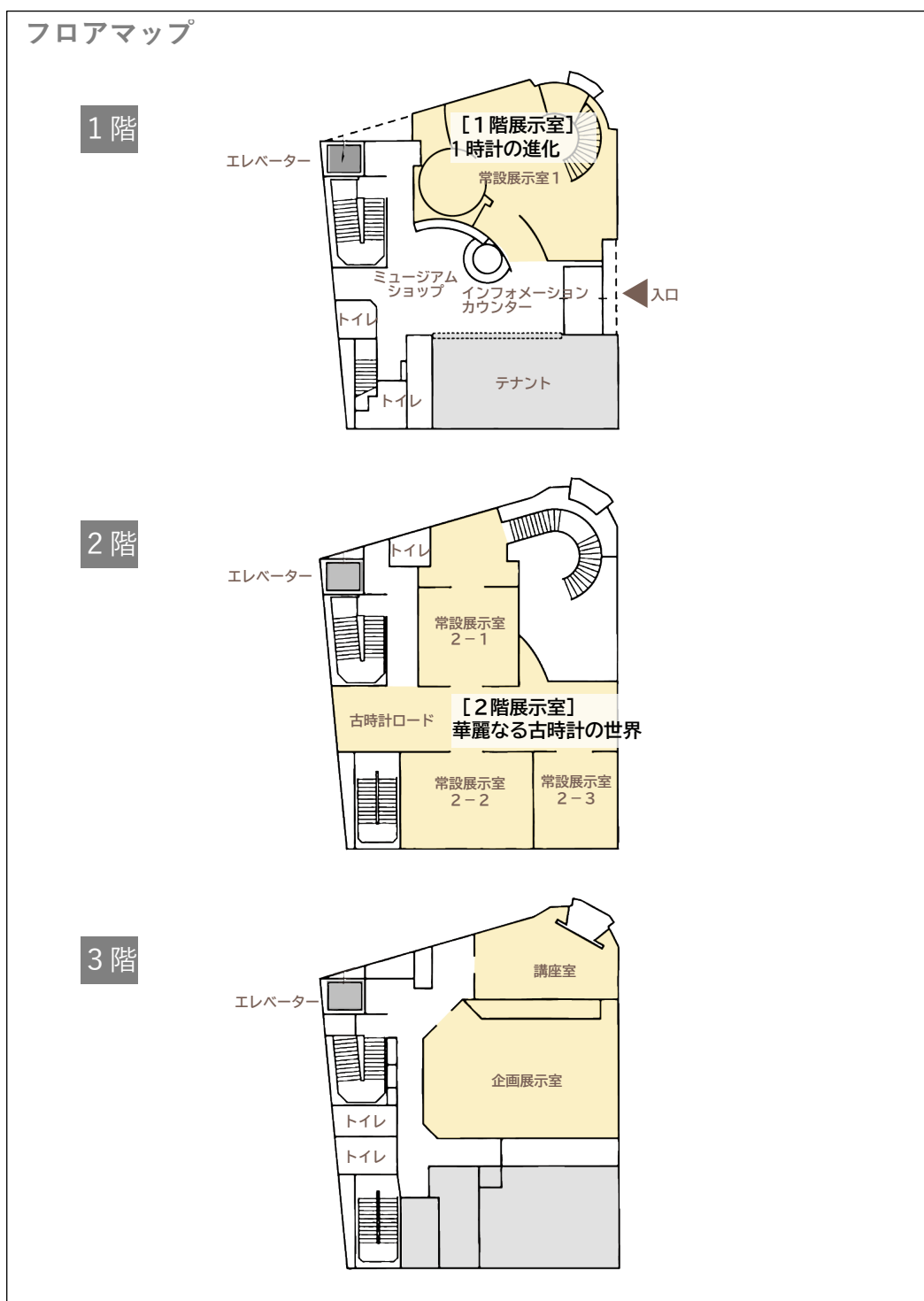


[展示概要]

300点を超える本田コレクションに、市民等からの寄贈資料も加えた時計及び関連資料の中から、常時約110点を展示公開

蒐集^{しゅうしゅう}したコレクションを「永く保存し、多くの皆さんに供覧し、お役に立てたい」との思いから、自らの手で修理し、稼働状態を保っていた本田親蔵の意思を受け継ぎ、可能な限り動いた状態で公開

国内でも有数のコレクションを活用し、時計の外観や構造だけでなく、時計が刻む時間と人々の暮らしとの深い関わりやその変遷という視点から、先人の苦勞に思いを致すことを目指している。



本田親蔵コレクションとは

本田親蔵（明治 29 年・1896～昭和 60 年・1985）が、生涯をかけて蒐集した古時計やその関連資料で、時計博物館が所蔵する資料総数は 342 点を数える。古時計は 16 世紀から 20 世紀初頭にかけて、日本、フランス、イギリス、スイス、アメリカ等 8 か国にわたる国々が製造した時計で構成されている。関連資料として、江戸・明治期を中心とする時計を取り扱った文献や錦絵などを残す。

昭和 45 年、本田親蔵と塚田泰三郎の共著『古時計-西洋と日本-』の出版を記念し、市立博物館で「日本・西洋古時計展」が開催される。その後、地元の時計商・能勢活朗の尽力もあり、昭和 49 年 11 月 1 日、松本市に貴重なコレクションが寄贈された。その後、松本市では時計資料専門の博物館施設の設置を検討、その準備の一環として、本田親蔵旧蔵資料 29 点を新たに取得し、資料群の充実を図った。

本田親蔵は鹿児島県に生まれ、京都大学青柳研究所の技師としてニクロム線の研究を行った。終戦直後の昭和 21 年に諏訪市へ移り、本田導入線製作所を創設し、事業や研究のかたわら古時計の蒐集に没頭したという。

古時計の蒐集を始めたのは大正 8（1919）年頃からで、古時計コレクションの中には、優れた研修者であり技術者でもあった親蔵自ら改造を施したものもある。戦時中の厳しい条件下でも蒐集と研究は続けられ、その成果とも言えるのが、独力によるローリングボールクロックの制作である。

ローリングボールクロックとは、1800 年代初頭に考案されたからくり時計で、金属製の球が天板の溝に沿って端から端まで転がり、この運動を往復することで時を刻むものである。親蔵がローリングボールクロックの製作を試みた時代には日本にモデルがなかったため、古文書を漁りながら試行錯誤を繰り返し、2 年の歳月をかけ昭和 49 年に完成させた。技術者であり研究者であった親蔵の、熱意と技巧を伝える資料の一つといえる。



本田親蔵の制作によるローリングボールクロック
時計博物館 所蔵

2 各調査結果

時計博物館は、国内外からの観光客の増加やインバウンド需要の拡大によって令和5年度、6年度ともに有料観覧者数の過去最大値を更新し続けています。令和6年4月にはアメリカを代表する日刊新聞紙ニューヨーク・タイムズに取り上げられたこともあり、世界的にも価値が認められました。古時計コレクションをはじめ多くの資料が動いている動態展示は国内外から注目を集めており、来館者アンケートにも動態展示の継続を強く望む声が多く寄せられています。

一方で、平成14年9月の開館から20年以上が経過し、展示造作の老朽化や故障が散見されるほか、現状把握のための各調査からは以下のような要素の導入が望まれていることが分かりました。

【導入が望まれる要素】

		来館者アンケートの結果	職員アンケートの結果	現場調査*の結果
展示・公開に関する要素	ストーリー	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史や文化と時計コレクションとの関係など、時計博物館の設置ストーリーの紹介 本田親蔵が制作した時計の動態展示 歴史を概観する解説 	<ul style="list-style-type: none"> 和時計の変遷の紹介 映像や体験を通して機械式時計の仕組みが分かる展示の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 機械式時計の魅力発信 本田親蔵や地域との関係性の紹介
	手法	<ul style="list-style-type: none"> 時報など音を楽しむ工夫 小さな子どもが楽しめるコーナー 	<ul style="list-style-type: none"> 動かしたり触れたりできる展示 時計の歴史などの解説映像の導入 映像や体験を通して機械式時計の仕組みが分かる展示の導入 ※再掲 	<ul style="list-style-type: none"> 体感を通して理解を深める展示（機械式時計の仕組体験など）
	解説	<ul style="list-style-type: none"> 資料解説の充実 多言語対応 解説アプリの周知 	<ul style="list-style-type: none"> 展示解説の拡充（読みやすい文字サイズ） 多言語対応 	<ul style="list-style-type: none"> 未就学児や多言語など、誰もが分かる解説
	コーナー展開	<ul style="list-style-type: none"> 展示資料の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 高度経済成長期以降のコレクションの活用 資料の特徴が見やすいケースの導入 展示替えしやすいコーナーの導入 	-
		-	<ul style="list-style-type: none"> 蓄音機資料を活用した動態展示の充実化 	-
空間演出等	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい観覧順序 	<ul style="list-style-type: none"> 展示更新やメンテナンスがしやすい環境の確保（ネジ巻き作業や展示替えがしやすいレイアウトやケースの導入、照明の追加・メンテナンス） 	<ul style="list-style-type: none"> 導入展示と各コーナーのメリハリ フォトジェニックな空間演出 	
収集・保存に関する要素	-	<ul style="list-style-type: none"> 時計修理環境の充実（水回りの確保、加工機等の設置、修理スペースの拡充等） 	-	
教育・普及に関する要素	-	<ul style="list-style-type: none"> 時計修理の実演公開 	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成につながる取組み 	
	-	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い年代層に博物館を楽しんでもらうプログラムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 親子連れや児童・生徒の来館につながる取組み 	
情報発信に関する要素	-	<ul style="list-style-type: none"> SNSや動画配信サービスを活用した情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> データベースの効果的な活用 	
来館者サービスに関する要素	-	<ul style="list-style-type: none"> オリジナルグッズ等、ミュージアムグッズの充実 ミュージアムショップや受付の整備（ショーケースや監視カメラのメンテナンス） 	-	

※ 現場調査：令和7年4月17日、時計博物館立会いのもと、丹青社・丹青研究所が、時計博物館の共用部・常設展示室・企画展示室・時計工房について視察調査を行った。

※ 来館者アンケート：令和7年1～3月分集計結果（回答数67件）

※ 職員アンケート：令和7年4月実施

II 本計画の位置付け

本計画は、他の計画と整合をとりながら「松本まるごと博物館構想」を具現化するための計画として位置付けます。

【関連する計画】

松本市総合計画（基本構想2030・第11次基本計画）（抜粋） 計画期間：令和3～7年度

基本施策 1-7 ニーズに応じた生涯学習の実現

目標：多世代の多様なニーズに応じた学習機会や施設等の充実を図り、誰もが豊かな人生を送り、活躍できる生涯学習社会を目指します。

重点戦略(DX)

・デジタル技術を活用したオンライン講座、キャリア講座の充実

施策の方向性

・多様なニーズに応じた学習機会の創出

オンライン講座やキャリア教育の充実、人材バンクの構築、学び直しへの支援など、多様なニーズに応える学習機会を創出し、まちづくりに貢献する人材の育成につなげる。また、生活・地域課題に根ざした学びあいを通して、充実した暮らしや課題解決につなげる取組みを推進する。

基本施策 7-2 歴史・文化遺産の継承

目標：歴史・文化資産の魅力の向上や周知を図り、教育・まちづくり・観光等に活用しながら保存し、後世に継承することを目指す。

重点戦略(DX)

・ICTを活用した多様な学びや機会の創出

・情報発信の強化、充実

・デジタルを活用した記録、継承

施策の方向性

・学ぶ環境の充実と持続可能な運用

継承の担い手育成や展示・見学施設の整備等の普及・公開活動を推進し、歴史・文化資産を学ぶ機会を充実させるとともに、観光やまちづくりに活用することで新たな価値を創造し、持続可能な保存活用を図る。

・文化財を活用した地域づくり

市民とともに文化財等の身近な地域資源の調査を行い、その潜在的価値を地域で共有し、情報発信に努めることで、地域への愛着を高め、市民の地域づくりや観光誘客の活動に繋げる。

松本まるごと博物館構想（抜粋）

平成12年3月策定

第4章 基本理念

第2節 構想の基本理念

松本まるごと博物館構想は、次の基本理念に沿って進める。

- 1 松本の豊かな自然環境や文化・産業等の遺産を活用し、地域振興に寄与する。
- 2 市民が主体的に関わることで、市民生活に精神的な潤いを与える。
- 3 高度情報化社会に対応する、情報の収集と発信の拠点とする。
- 4 博物館がこれまで果たしてきた役割を重視し、市民の学習及び研究の拠点とする。

第5章 施策の大綱

第1節 環境と博物館の融合

松本市という空間を「屋根のない博物館」とみなし、自然環境や文化遺産を現地で保存して活用するとともに、生活環境や景観、文化、産業等を一体としてとらえ、特徴ある地域のまちづくり等に寄与します。

第2節 市民と博物館の連携

利用する市民の誰もが主役となれるよう、企画・運営、調査・研究など新たな参加の形態を満たすよう、博物館機能の充実に務めます。

第3節 ネットワーク化の推進

地域を総合的に理解できるよう、まちなりたちと自然環境、自然環境と文化遺産等を結びつけ、松本まるごと博物館が地域社会と市民、情報と市民などあらゆるネットワークを媒介します。

松本市教育大綱（抜粋）

令和4年2月14日策定

松本市は、「子どもを主人公とし、その学びを地域社会全体で支えること」を学都松本の根本に据え、先人たちが築き上げてきた礎のもと、「学都松本のシンカ」に挑む。

重点 ③ 「遊び」や「体験」を大切にした学びの拡充

- ・子どもや若者が集い、他者と協働的に学ぶことができる場と機会の創出
- ・本物の芸術や文化に触れることができる場と機会の創出

第3次松本市教育振興基本計画（抜粋）

計画期間：令和4～8年度

<p>分野2 教育 方針1 学童期の遊びと学びの充実 【2-1 令和3年度の主要事業一覧】 8 中学生職場体験の受入れ事業 中学生の職場体験として受け入れ、学芸員の仕事を体験してもらうなど、博物館に親しみ、学芸員としてのキャリアを伝えていく事業（担当課：博物館）</p> <p>分野4 社会教育 方針2 リカレント教育の充実 【4-2 令和3年度の主要事業一覧】 3 展覧会開催事業 松本の自然や歴史文化に対する市民の関心を高め、人の交流・観光に資するための、資料の収集・調査研究からなる企画展・特別展を開催する事業（担当課：博物館） 4 学都松本・博物館関連事業 ボランティアや市民との協働連携事業、学校連携事業、講座の開催、研究報告書作成等を行う事業（担当課：博物館）</p> <p>分野9 文化芸術・歴史 方針1 文化芸術・歴史の魅力の発信 【9-1 令和3年度の主要事業一覧】 1 美術・博物館資料の収集事業 松本市美術館・松本市立博物館の収集方針に基づき、かけがえのない美術遺産・博物館資料を収集し、次世代に引き継ぐ事業（担当課：美術館・博物館） 4 博物館施設全体事業の広報 広報まつもと、まるごと博物館行事案内等に関わる広報事業（担当課：博物館） 7 展覧会開催事業 松本の自然や歴史文化に対する市民の関心を高め、人の交流・観光に資するための、資料の収集・調査研究からなる企画展・特別展を開催する事業（担当課：博物館）</p>
--

第3次松本市子どもにやさしいまちづくり推進計画（抜粋）

計画期間：令和7～11年度

<p>第4章 推進施策と事業一覧 1 推進施策 【施策の方向7】子どもの育ちを支援する環境づくり 推進施策2 子どもが安心して育つことができる環境づくり 1 子どもへの包括的支援</p> <p>2 推進施策別事業一覧 【施策の方向7】子どもの育ちを支援する環境づくり 7-2-1 事業番号721 子ども体験講座 博物館で、子どもを対象とした各種の講座を開催する。（担当課：博物館） 7-2-1 事業番号722 小中学生親子用博物館パスポート配布事業 市内の小中学校に、児童・生徒1名と付き添いの保護者1名を無料又は割引で松本市立博物館・国宝松本城等10施設を観光できるパスポートを配布する。（担当課：博物館） 7-2-1 事業番号723 園児体験支援事業 就学前児童に対する古時計の説明会を開催する。（担当課：博物館）</p>

松本市観光ビジョン（抜粋）

計画期間：令和6～10年度

<p>IV 本ビジョンにおける事業計画 3. 基本方針③～すすめる～ 文化観光の推進 文化資源の保護と文化資源を活用した情報発信及び都市文化の磨き上げ 観光関連施設等の管理・改修 インバウンド受け入れに向けた観光関連施設の多言語化等の受入環境整備</p>

松本市工業ビジョン中間見直し版_2023.5改訂（抜粋）

計画期間：令和5～9年度

<p>6 施策の具体的内容 【基本戦略3】松本市ものづくり産業の未来を担う人材の確保 基本方針② 人材不足の克服 推進事項4 次代を担うものづくり人材の成長支援 主な取組内容 ・まつもと広域ものづくりフェアにおける、ものづくり体験講座の開催を支援する。</p>

Ⅲ リニューアルの方向性

1 本施設の基本理念と役割

関連計画等を踏まえ、本施設のリニューアルの方向性を次のように設定します。

【基本理念】

世界的にも貴重な古時計コレクションを所有する松本市として、これらの資料を保存・活用し、未来に継承する。

役割 1

時計・時間という視点から松本の魅力を発信する。

- ・ 時計の歴史と人間の歴史は密接な関係にあり、松本の歴史においても時計や時間は重要な要素となっています。
- ・ 松本城下町における「時」の制度を今に伝える松本城太鼓門や旧念来寺鐘楼、近代諸制度の導入などにより、定時法による時間管理のために設置された「城山のドン」やモーターサイレンなど、時計や時間にまつわる資料やエピソードを通して、人々の暮らしの変化を紹介します。
- ・ 高度成長期に新産業都市として機械金属工業の街へと発展した背景には、城下町であり交通の要衝として各地から人や技術が集まり発展し、松本の風土に根付いたものづくりの精神があります。産業工芸と言える時計を通して松本ならではの文化を紐解き、新たな魅力として発信します。

役割 2

ものづくりの魅力を伝え、時計技術の継承に寄与する。

- ・ 時計に対する興味・関心を高め、時計のしくみを学ぶ機会を提供し、時計業界への入口となることを目指します。
- ・ 実演やワークショップ、体験型展示などを導入し、子どもから大人まで楽しめる体験によってより深い資料への理解を促します。
- ・ 将来の時計業界の担い手の確保に寄与するとともに、本施設における動態展示の維持継続に繋がる人材の確保を図ります。

2 リニューアルでの対応

「1. 本施設の基本理念と役割」を踏まえ、次のような対応を行います。

		各調査の結果 ※P6 再掲	対 応
展示・公開に関する要素	ストーリー	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史や文化と時計コレクションとの関係など、時計博物館の設置ストーリーの紹介 本田親蔵が制作した時計の動態展示 歴史を概観する解説 和時計の変遷の紹介 映像や体験を通して機械式時計の仕組みが分かる展示の導入 機械式時計の魅力発信 本田親蔵や地域との関係性の紹介 	<p>▶ 「松本に時計博物館がある必然性」を伝える展示ストーリーへの見直し</p> <p>→IV具体的な取組み「展示・公開-①」に反映</p>
	手法	<ul style="list-style-type: none"> 時報など音を楽しむ工夫 小さな子どもが楽しめるコーナー 動かしたり触れたりできる展示 時計の歴史などの解説映像の導入 映像や体験を通して機械式時計の仕組みが分かる展示の導入 ※再掲 体感を通して理解を深める展示(機械式時計の仕組み体験など) 	<p>▶ 子どもから大人まで、体験を通して理解を深める展示手法の導入</p> <p>→IV具体的な取組み「展示・公開-②」に反映</p>
	解説	<ul style="list-style-type: none"> 資料解説の充実 多言語対応 解説アプリの周知 展示解説の拡充(読みやすい文字サイズ) 多言語対応 未就学児や多言語など、誰もが分かる解説 	<p>▶ 多様な人々にとって読みやすく、分かりやすい展示解説の導入</p> <p>→IV具体的な取組み「展示・公開-③」に反映</p>
	コーナー展開	<ul style="list-style-type: none"> 展示資料の拡充 高度経済成長期以降のコレクションの活用 資料の特徴が見やすいケースの導入 展示替えしやすいコーナーの導入 	<p>▶ 膨大なコレクションを活用するためのミニ企画展示スペースの確保</p> <p>→IV具体的な取組み「展示・公開-④」に反映</p>
	空間演出等	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい観覧順序 展示更新やメンテナンスがしやすい環境の確保(ネジ巻き作業や展示替えがしやすいレイアウトやケースの導入、照明の追加・メンテナンス) 導入展示と各コーナーのメリハリ フォトジェニックな空間演出 	<p>▶ 観覧のしやすさに配慮した展示空間演出への見直し</p> <p>→IV具体的な取組み「展示・公開-⑤」に反映</p>
収集・保存に関する要素	<ul style="list-style-type: none"> 時計修理環境の充実(水回りの確保、加工機等の設置、修理スペースの拡充等) 	<p>▶ 公開型修理作業スペースの導入</p> <p>→IV具体的な取組み「収集・保存」に反映</p>	
教育・普及に関する要素	<ul style="list-style-type: none"> 時計修理の実演公開 人材育成につながる取組み 	<p>▶ 公開型修理作業スペースの導入*再掲</p> <p>→IV具体的な取組み「教育・普及-①」に反映</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 蓄音機資料を活用した動態展示の充実化 幅広い年代層に博物館を楽しんでもらうプログラムの実施 親子連れや児童・生徒の来館につながる取組み 	<p>▶ 幅広い世代の来館につながる取り組みの実施</p> <p>→IV具体的な取組み「教育・普及-②」に反映</p>	
情報発信に関する要素	<ul style="list-style-type: none"> SNS や動画配信サービスを活用した情報発信 データベースの効果的な活用 	<p>▶ これまでの調査・研究の成果を活用しながら、古時計コレクションの魅力や取組みを広く発信します</p> <p>→IV具体的な取組み「情報発信」に反映</p>	
来館者サービスに関する要素	<ul style="list-style-type: none"> オリジナルグッズ等、ミュージアムグッズの充実 ミュージアムショップや受付の整備(ショーケースや監視カメラのメンテナンス) 	<p>▶ 来館の思い出として記憶に残るサービスの提供</p> <p>→IV具体的な取組み「来館者サービス」に反映</p>	

IV 展開する事業活動とリニューアルのポイント

「III リニューアルの方向性」を踏まえ、以下の事業活動を展開します。

展示公開

○ 収蔵資料やこれまで収集・蓄積した調査・研究の成果などを活用し、常設展示と企画展示を行います。

- ・ 本田コレクションを核とする収蔵資料を活用した常設展示を行います。
- ・ 時計の仕組みを具体的かつ分かりやすく伝える展示を行います。
- ・ 時や時計、城下町等をテーマとした企画展示を行います。

リニューアルのポイント

- ① 「松本に時計博物館がある必然性」を伝える展示ストーリーを展開します。
 - ・ 松本と時計の関わりを紹介します。
 - ・ 本田親蔵の功績と時計博物館のあゆみを紹介します。
- ② 子どもから大人まで、体験を通して理解を深める展示手法を導入します。
 - ・ 時計の歴史を概観する展示を行います。
 - ・ 時計の仕組みを理解できる体験型展示を行います。
- ③ 多様な人々にとって読みやすく、分かりやすい展示解説を導入します。
 - ・ 子どもたちにも分かりやすい見どころ解説などを導入します。
 - ・ 多言語による解説を行います。
 - ・ 最適な文字サイズや文字量など、情報へのアクセシビリティを高める解説計画を検討します。
- ④ 膨大なコレクションを活用するためのミニ企画展示スペースを設置します。
 - ・ 定期的な展示替えがしやすい展示コーナーを設け、収蔵資料の公開活用機会を拡充します。
- ⑤ 観覧のしやすさに配慮した展示空間演出を導入します。
 - ・ 印象的な空間デザインにより、来館者の記憶に残る体験を提供します。
 - ・ コーナーごとに特徴を打ち出した空間デザインや分かりやすい観覧順路により、明確でスムーズな観覧を実現します。

収集・保存

- **動態展示の維持・継続や古時計コレクションの価値や魅力を高めるために必要となる、資料や情報を収集・整理・蓄積します。**
 - ・別途定める収集方針・収集計画に基づき収集活動を行います。
 - ・収蔵資料の修理に必要な部品や道具の収集・管理を行います。
- **貴重な古時計コレクションの散逸を防ぎ、未来へ継承します。**
 - ・収蔵資料の特性に配慮した保存環境と、安全に修理作業を行うことのできる環境を確保し、貴重な資料を確実に後世へと継承します。
 - ・貴重なコレクションを保存・継承していくため、将来に向けた時計修理技師の獲得や育成に向けて、時計の修理作業等を公開します。

リニューアルのポイント

- ⑥ **公開型修理作業スペースを設置します。**
 - ・修理作業スペースを「時計工房」として公開し、時計修理に必要な道具類や修理作業の様子を多くの人々に伝えます。

調査・研究

- **時計のデザインや仕組みの変遷、時間と人々の暮らしの関わりを明らかにします。**
 - ・技術者であった本田親蔵が生涯をかけて蒐集した和洋の機械式時計に加え、市民等から寄贈された現代の時計も活用しながら、時を刻む技術の発展、時代とともに変化する時間の持つ価値や役割、松本の歴史や文化における時間や時計の役割などを明らかにします。

教育普及

- **多様な視点から古時計コレクションの魅力に触れる機会を提供します。**
 - ・就学前の児童を対象に「園児向け古時計説明会」を開催します。
 - ・幅広い年代に向けて、楽しみながら時計の仕組みや歴史に触れられるプログラムや講座などを展開します。
- [教育普及事業等 年間実施イメージ]
- 4～6 月：園児向け古時計説明会
 - 7～9 月：夏季特別展
 - 10 月：園児向け古時計説明会
 - 11～3 月：企画展示／ワークショップ 等

リニューアルのポイント

⑦ 公開型修理作業スペースを設置します。(再掲)

- ・時計の修理に必要な道具類や修理作業の公開を通して、機械式時計への興味・関心を高めます。

情報発信

○ これまでの調査・研究の成果を活用しながら、古時計コレクションの魅力や本施設の取組みを広く発信します。

- ・関係課等と連携し、ホームページのほか SNS、動画配信サービス等を活用し、本施設の魅力を国内外に広く発信します。

来館者サービス

○ 来館の思い出として記憶に残るサービスを提供します。

- ・時計関連書籍の閲覧など、くつろぎながら学ぶことのできる憩いのスペースを設置します。
- ・工芸のまちとしてもものづくりが盛んな本市の特徴を生かし、市内の企業・団体等と連携・協力しながらオリジナルグッズの開発等を行います。

V 展示計画

1 展示リニューアルのポイント

時計を通してものづくりの街・松本の魅力を発信

城下町・松本の歴史や風土が育んだものづくりの精神を、本田コレクションを活用し、広く発信します。

時計の世界を楽しむ仕掛け

複雑な機械式時計や和時計のしくみを楽しく理解し、時計への興味関心を高めるため、体験アイテム、デジタルコンテンツ、空間演出等による没入体験を提供します。

時計の魅力を伝える資料解説

時計のしくみや魅力を伝えるため、見どころ解説や多言語解説などを導入し、多様な人々にとって分かりやすい資料解説に更新します。

「時計工房」の新設

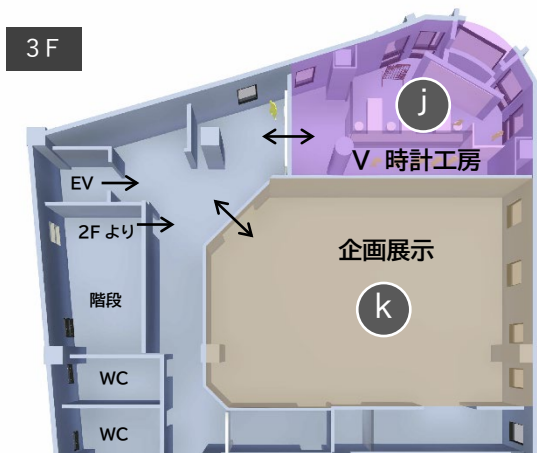
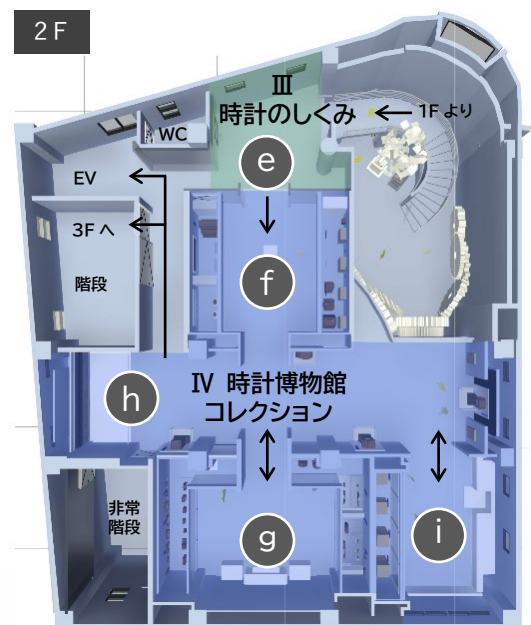
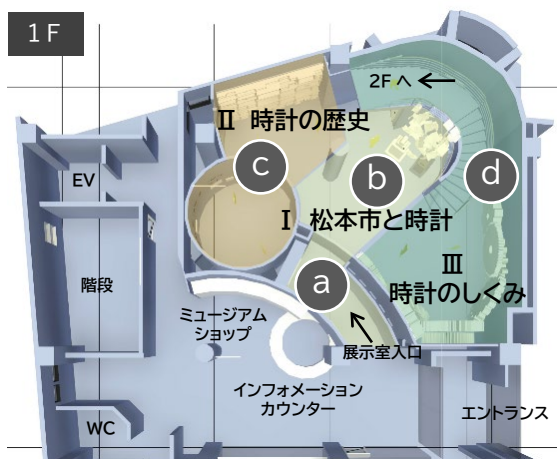
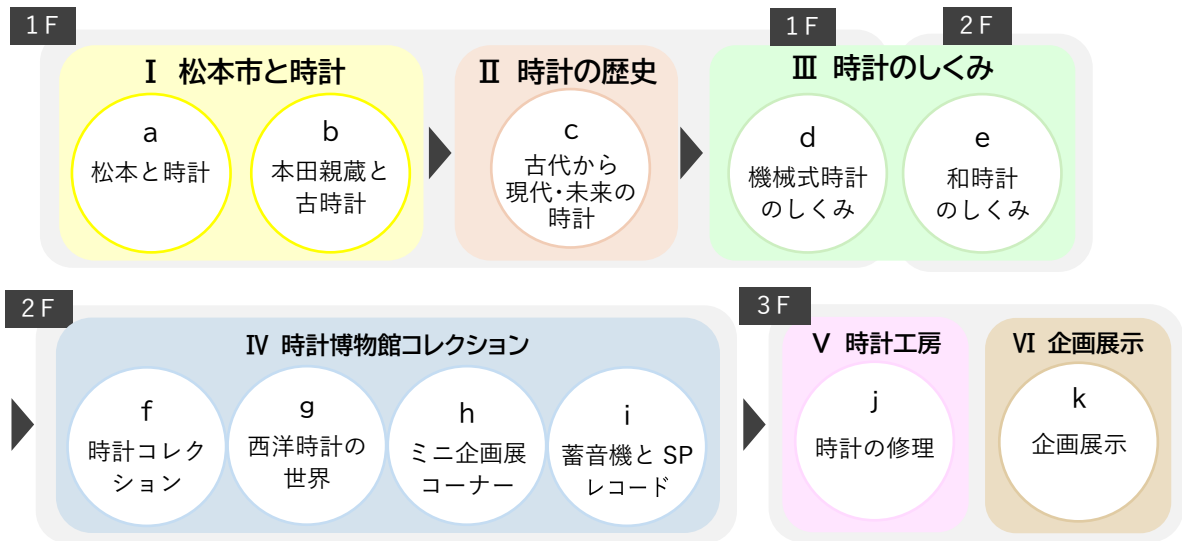
時計や修理技術への興味関心を引き出すため、緻密な修理作業を間近に見ることのできる公開型修理作業スペース「時計工房」を新設します。

2 展示概要と改修範囲

(1) 現状の展示構成

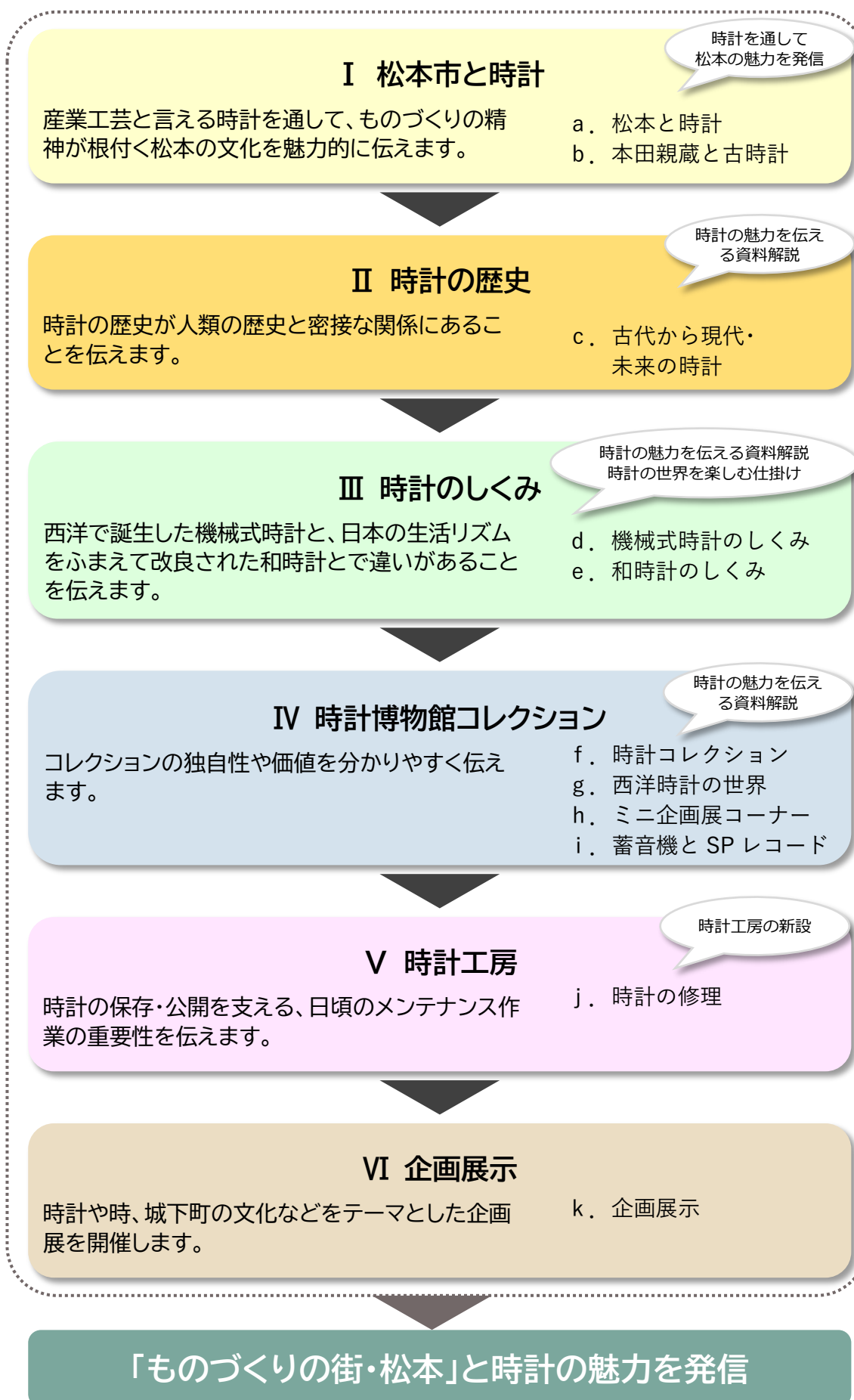


(2) リニューアル後の展示構成とゾーニング



※今後の検討や詳細設計により、変更される可能性があります。

(3) 展示構成



(4) 各コーナーの展示内容

I 松本市と時計

展示のポイント：

○時計・時間という視点から松本の魅力を伝える。

a. 松本と時計

ねらい

時計博物館の開館に至る歴史やエピソード、さらに松本城下町の時の制度など、時を巡る歴史や文化、ものづくりなどの営み・魅力を紹介します。

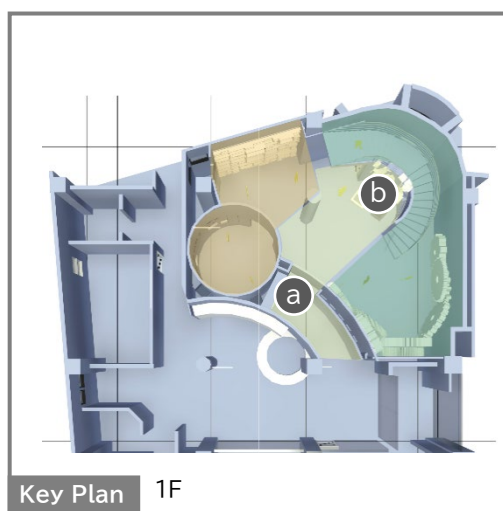
ストーリー

展示室へ向かう通路に、松本市と時計との関わりの歴史、時計博物館の開館に至るエピソード等を、親しみやすいイラストを活用したグラフィックで簡潔に紹介します。

通路の正面には、館のコレクションを概観できるグラフィックを配置し、来館者の期待感を高めます。

主な展示アイテム

・ゾーンサイン、壁面グラフィック



展示イメージ ※今後の検討や詳細設計により、変更される可能性があります。

b. 本田親蔵と古時計

ねらい

古時計の蒐集と研究に情熱を燃やした本田親蔵の人物像と功績を紹介します。コレクションの収集経緯や独力により制作したローリングボールクロックの制作ストーリーを通して、国内有数の古時計コレクションの価値を伝えます。

ストーリー

本田親蔵の人物像や時計に向けた願いを紹介するとともに、吹き抜け空間を活用して、本田親蔵のコレクションや研究成果のボリューム感を視覚的に展示し、2階のコレクション展示へと来館者のイメージを膨らませます。

また、貴重なローリングボールクロックが時を刻む様子を実物資料の動態展示や映像等により展示します。

主な展示アイテム

- ・ コーナーサイン
- ・ 実物資料（本田親蔵胸像、ローリングボールクロック）
- ・ 映像上映用タブレット



展示イメージ ※今後の検討や詳細設計により、変更される可能性があります。

II 時計の歴史

展示のポイント：

- 時計の魅力を多様な人々に分かりやすく紹介
- 時計の未来を子どもたちと考える。

c. 古代から未来・現代の時計

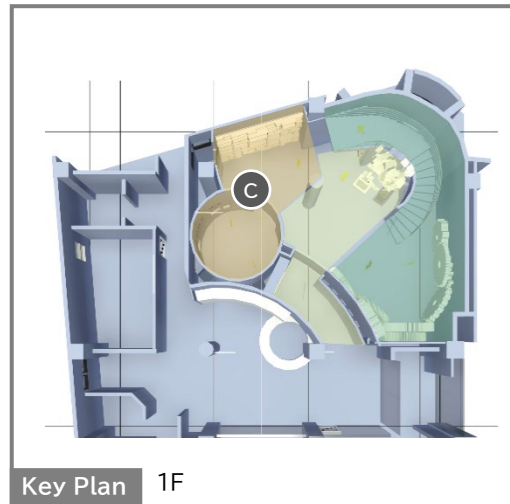
ねらい

古代から現代へ至る時計の歴史をたどり、時計の発展と社会の変化を実感するとともに、時計の未来を考えるきっかけを提示します。

ストーリー

円筒型の部屋で、時計の歴史を実物資料と年表を組み合わせ展示します。外壁側の壁面には、現代の時計の実物資料や未来の時計のイメージをスタイリッシュに展示します。

さらに、子どもたちの考える未来の時計を募り紹介する市民参加型の展示を行います。



主な展示アイテム

- ・ゾーンサイン、コーナーサイン、年表グラフィック、解説グラフィック
- ・実物資料



展示イメージ ※今後の検討や詳細設計により、変更される可能性があります。

Ⅲ 時計のしくみ

展示のポイント：

- 子どもにも分かりやすく時計のしくみを紹介する体験型展示
- デジタルコンテンツで時計のしくみを分かりやすく解説

d. 機械式時計のしくみ

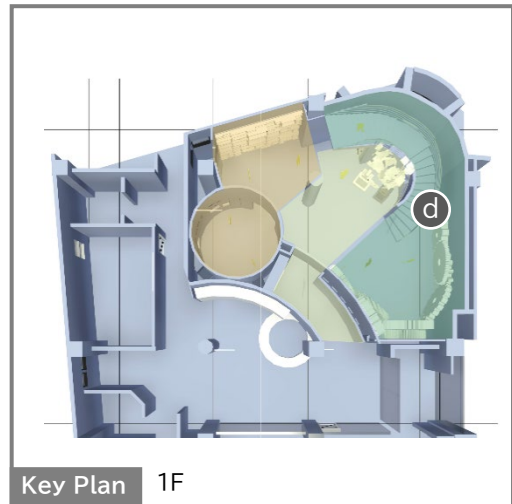
ねらい

機械式時計が正確に時を刻むしくみについて、子どもたちにも分かりやすく、親しみやすい手法で紹介し、機械式時計への興味・関心を引き出します。

ストーリー

3つの壁面に囲まれた空間と階段周辺の壁面を活用し、図解や空間演出等により、機械式時計の魅力を伝えます。

また、機械式時計のしくみや機構について体験できる遊具を設置します。



主な展示アイテム

- ・ゾーンサイン、コーナーサイン、解説グラフィック
- ・実物資料（時計部品等）
- ・遊具（機械式時計のしくみや機構を体験）



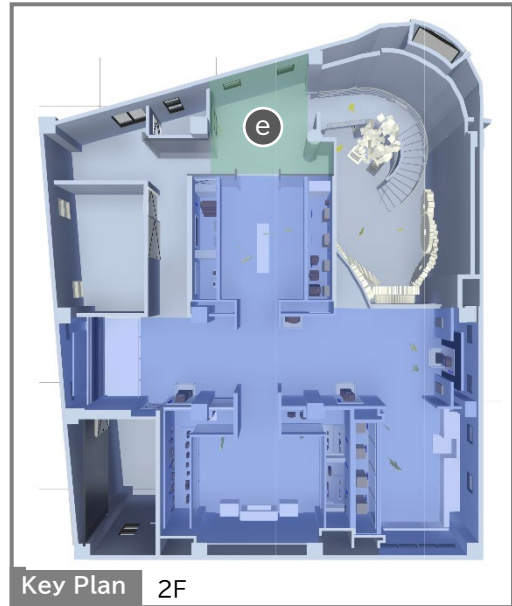
e. 和時計のしくみ

ねらい

不定時法を用いた和時計のしくみと、江戸時代の松本で取り入れられていた時報システムを紹介します。松本城や市内に残る鐘楼などのエピソードを交えながら、時計を通して江戸時代の松本のくらしを伝えます。

ストーリー

階段を上った先の2階壁面で不定時法の和時計と定時法の西洋時計の違いをタッチモニターでインタラクティブに紹介します。



主な展示アイテム

- ・コーナーサイン、解説グラフィック
- ・実物資料
- ・デジタルコンテンツ



展示イメージ ※今後の検討や詳細設計により、変更される可能性があります。

IV 時計博物館コレクション

展示のポイント：

- 収集資料をフルに展示活用
- 定期的な展示替えでリピーターを獲得

f. 時計コレクション

ねらい

掛け時計や置き時計など多種多様な機械式時計の動態展示により、振り子の揺れる様子や時を刻む音を体験できるようにするとともに、時計を動かすメカニズムや機械式時計の見どころを伝えます。

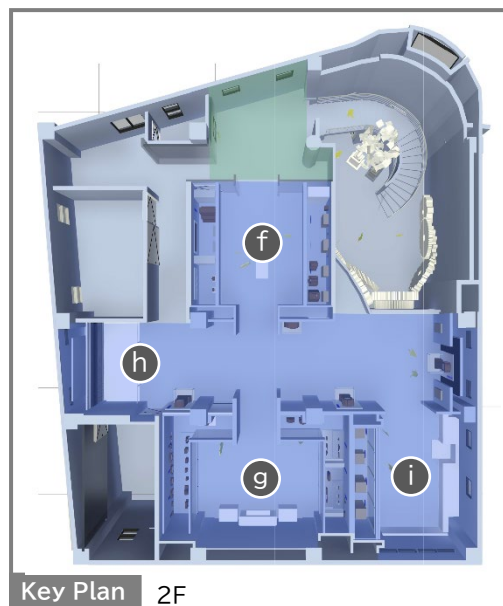
ストーリー

既存の「和時計の世界」を活用し、見どころ解説や多言語対応など導入し、多様な人々にとって分かりやすい資料解説へと更新します。

また、通路空間の壁面を使って大型資料を展示します。特に突き当たり部分はビュースポットとして象徴的な資料や展示方法を検討します。

主な展示アイテム

- ・ ゾーンサイン、コーナーサイン、解説グラフィック
- ・ 実物資料



展示イメージ ※今後の検討や詳細設計により、変更される可能性があります。

g. 西洋時計の世界

ねらい

オランダ、スイス、フランス、ドイツ、イギリス及びアメリカの様々な時計を体系的に紹介します。時を知らせるだけでなく、室内装飾としても発展した西洋時計の魅力を伝えます。



現在の展示室

ストーリー

既存の「西洋時計の世界」を活用し、見どころ解説や多言語対応などを導入し、多様な人々にとって分かりやすい資料解説へと更新します。展示コーナーの明確化、実物資料のイメージを広げる演出、子どもたちでも興味がわく見どころ解説の追加などを検討します。

主な展示アイテム

- ・ コーナーサイン、解説グラフィック
- ・ 実物資料

h. ミニ企画展コーナー

ねらい

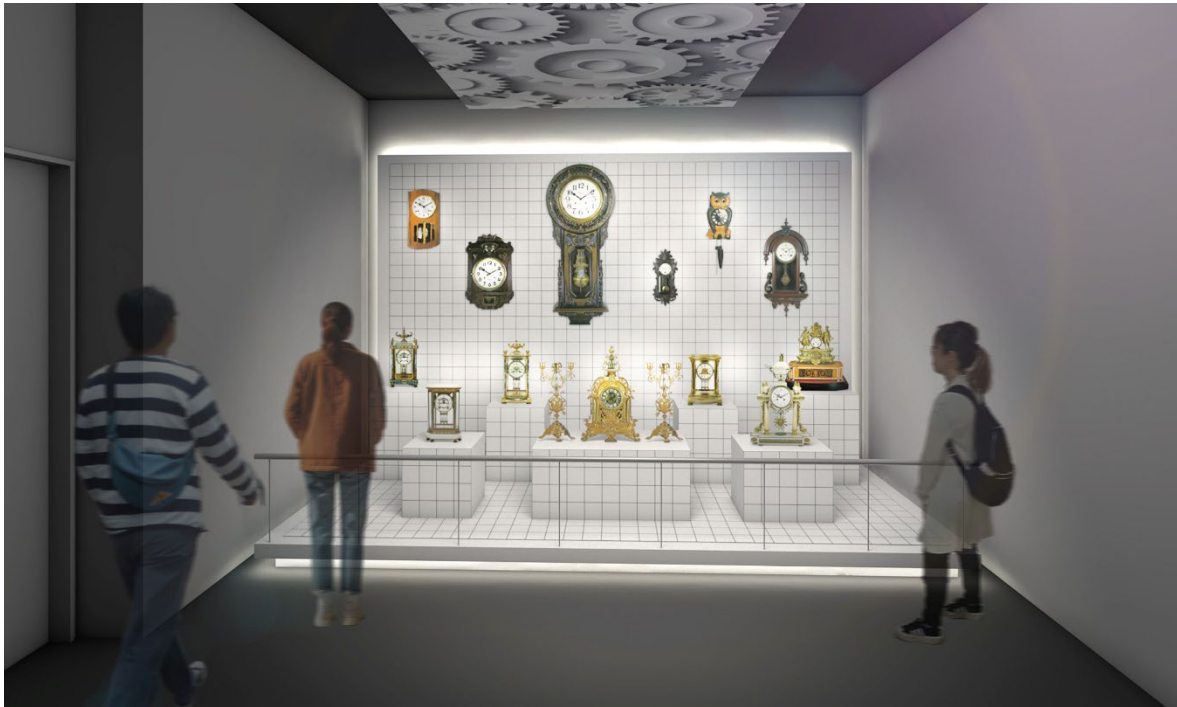
時計博物館コレクションの中から、特定のテーマで選定した資料について紹介します。

ストーリー

大小様々な資料の展示に対応できるコーナーを設置します。奥行きのあるステージなど資料形状に合わせた展示台、繊細な資料のための個別ケース、安全な資料展示のために最適な結界の形状や設置方法を検討します。

主な展示アイテム

- ・ コーナーサイン、解説グラフィック
- ・ 実物資料



展示イメージ ※今後の検討や詳細設計により、変更される可能性があります。

i. 蓄音機とSPレコード

ねらい

ゼンマイを動力とする蓄音機の製造を、日本では時計職人が行っていたことを紹介するとともに、SPレコードの鑑賞や時計に関する図書の閲覧などを通して、ゆったりと過ごせる空間を提供します。



現在の展示室

ストーリー

既存の「蓄音機とSPレコード」を活用し、見どころ解説や多言語対応など導入し、多様な人々にとって分かりやすい資料解説へと更新します。展示コーナーの明確化や実物資料のイメージを広げる演出、子どもたちでも興味がわく見どころ解説の追加などを検討します。

また、時計関連書籍を配置するなど、ゆったりと過ごすことのできるスポットとして整備し、来館者アンケートへの回答コーナーとしても活用します。

主な展示アイテム

- ・コーナーサイン、解説グラフィック
- ・実物資料

V 時計工房

展示のポイント：

○これまで非公開だった時計修理の様子を公開し、将来の時計技師の育成に寄与

j. 時計の修理

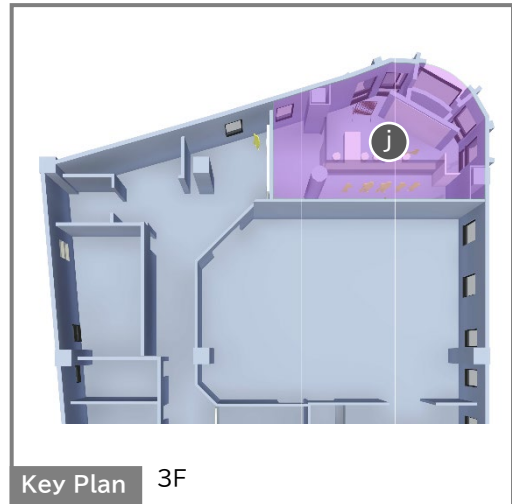
ねらい

公開型修理作業スペース「時計工房」を新設し、修理技術や工程、使用する工具等を具体的に紹介します。実際の作業風景を通して時計の修理技術を紹介し、機械式時計への興味・関心を高めます。

ストーリー

修理作業スペースと観覧スペースとは透明のパーテーションで囲い、視認性の確保と、資料や道具類の保護を図ります。

緻密な修理作業を間近で見ることができ、使用する道具や機械式時計を構成する部品の展示により、修理作業が行われていない時間も楽しめる空間とします。



主な展示アイテム

- ・ゾーンサイン、解説グラフィック
- ・実物資料（修理中の時計、工具等）
- ・映像（修理作業風景）



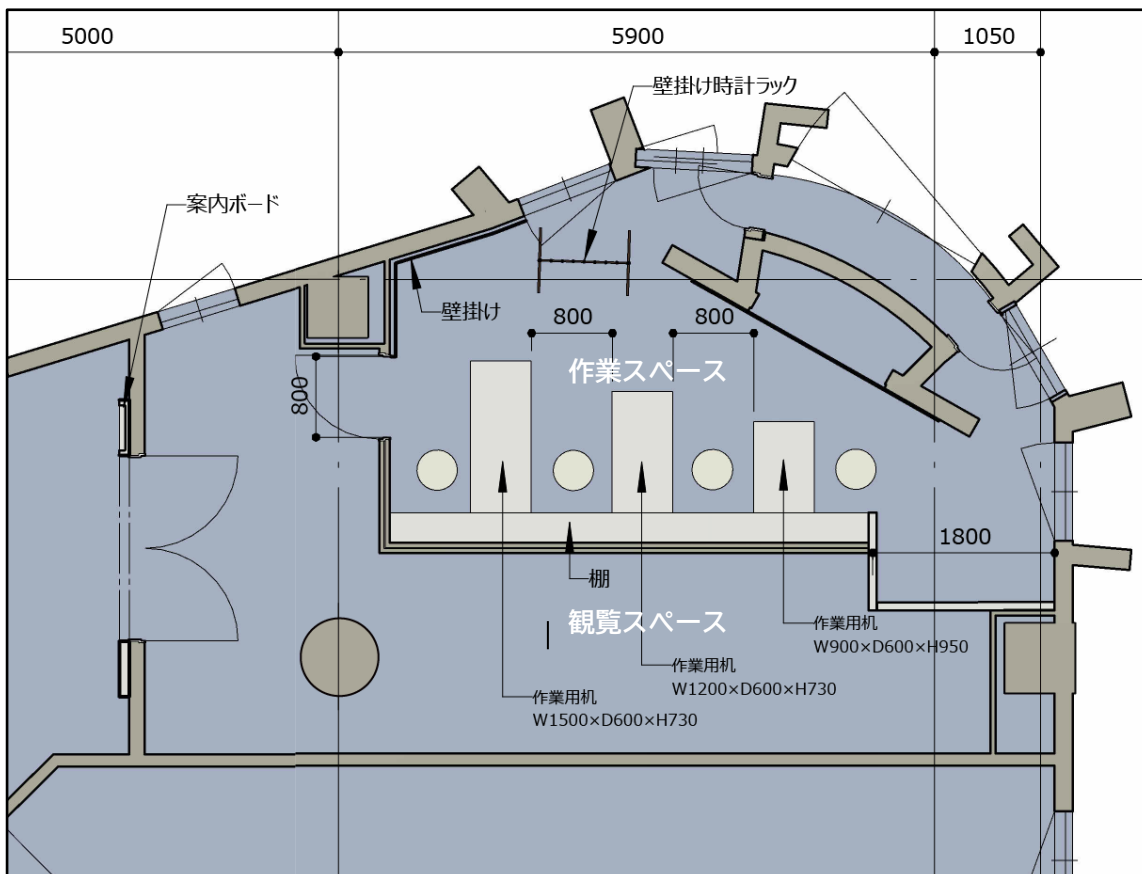
展示イメージ ※今後の検討や詳細設計により、変更される可能性があります。

[時計工房に必要な要素]

項目	要素
<p>作業環境・ 管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業スペースと観覧スペースの間に、パーテーション及び鍵付きの出入口 ・資材・備品等のストックルーム ・修理対象に応じた作業用机（クロック外装、クロック内部機械、ウォッチ） ・修理待ちの時計を壁に掛けておけるスペース ・壁掛け時計を背面から見る事ができるラック ・汚れにくく細かな部品が落ちても視認性の良い床 ・洗浄スペース ・PC入力、資料写真撮影のブースなどの事務作業スペース
<p>普及・公開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モニター・時計修理作業紹介コンテンツ ・臨時的に手元の作業が見せられる書画カメラ、投影機器等 ・修理道具の展示台・棚（道具は実際に使用する道具の置き場所を明示） ・来館者が横に広がって作業を見ることが出来るスペース・レイアウト ・廊下側からでも作業の様子が見えるレイアウト（来館者が部屋に入りやすい雰囲気演出） ・更新しやすい案内ボード（作業時間の予定や現在作業中の時計の紹介など）又はホワイトボード等を設置できる台やラック

[参考平面プラン]

※今後の検討や詳細設計により、変更される可能性があります。



(5) 展示解説方針

展示リニューアルに合わせて、ゾーンサインやキャプション等のグラフィック要素について、全体に見直しを行います。

なお、英語表記については、展示室内のグラフィックには必要最低限の表示とし、詳細情報は別途対応を検討します（ポケット学芸員、英語版展示解説シート等）。

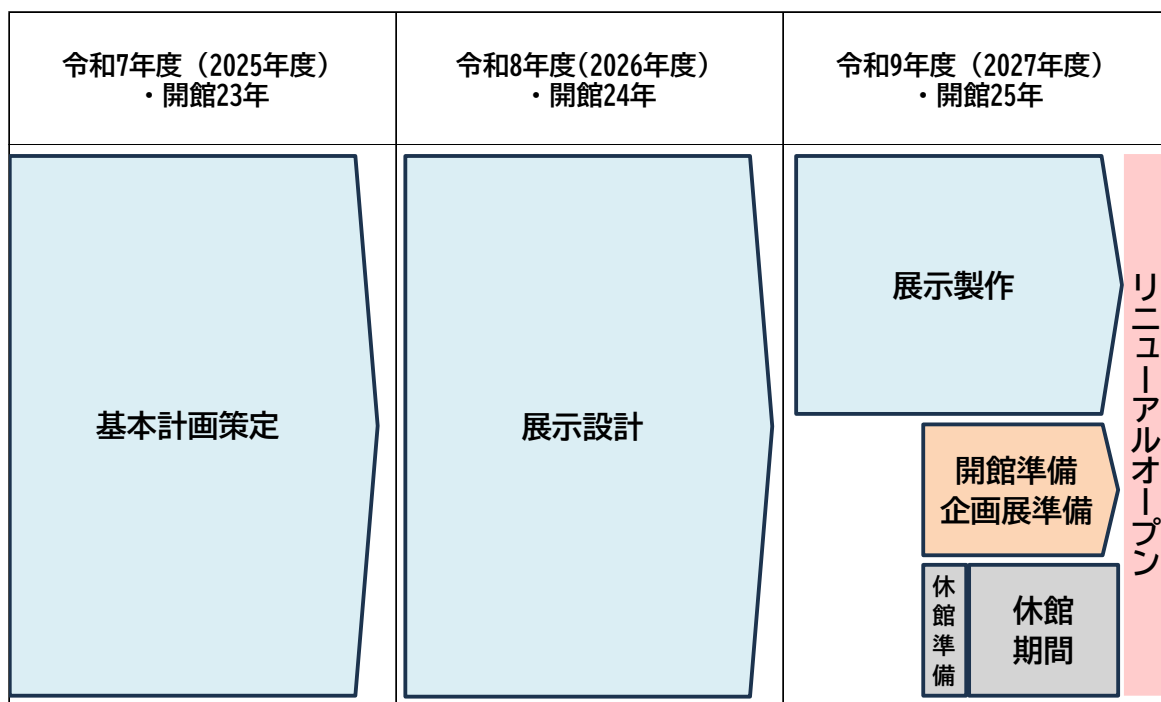
グラフィック要素	概要
ゾーンサイン	・「Ⅰ 松本市と時計」から「Ⅴ 時計工房」まで5つのゾーン構成が明確に伝わるようなデザインとします。
コーナーサイン	・「a. 松本と時計」から「j. 時計の修理」までの各コーナーに、コーナーのタイトルとねらいを示すグラフィックを設置します。 ・統一したデザインで、該当するゾーンタイトルとの関連を視覚的に認識できるデザインとします。
見どころ解説	・子どもにも分かりやすいよう、展示内容を補足する情報を掲載します。 ・全体を通して統一したデザインとします。
資料キャプション	・各資料に資料名、制作年代、制作地等の情報を掲載します。 ・全体を通して統一したデザインとします。



※今後の検討や詳細設計により、変更される可能性があります。

VI 事業スケジュール

本事業は以下のスケジュールで実施します。なお、開館準備やリニューアル工事に伴う休館の時期や期間については、具体的な工事内容等も踏まえながら、今後検討します。



松本市時計博物館展示リニューアル基本計画

発行年 令和8年3月

発行 松本市

松本市時計博物館

〒390-0811 松本市中央1丁目21番15号

TEL : 0263-36-0969 FAX : 0263-36-0973

Mail : tokei@city.matsumoto.lg.jp

